



会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表取締役社長 山本 良一
 お問合せ先 経営戦略統括部
 グループ広報・IR担当
 TEL 03-6895-0178

2015年1月度 J.フロント リテイリング 連結営業報告

1. セグメント別売上高（対前年増減率：％）

	1月度	9～1月度累計
百貨店事業	▲ 2.2	▲ 1.3
パルコ事業	1.5	1.8
卸売事業	9.9	▲ 1.7
クレジット事業	▲ 3.8	1.5
その他事業	27.1	7.8
連結合計	0.8	▲ 0.0

2. 売上高概況

1) 百貨店事業

- ・1月度の百貨店事業の売上高は、福袋を含めた初売りが堅調であったほか、婦人・紳士ともにコートを中心として定価商品が堅調に推移し、時計や化粧品も好調を持続したものの、クリアランスセールで婦人服の動きが鈍かったことや、前年消費増税前の駆け込み需要があった家具敷物の反動減などにより、大丸松坂屋百貨店合計では対前年▲1.3%減、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同▲2.2%減となった。

2) パルコ事業

- ・初売りから第1日曜日までの営業日数が対前年▲1日減となったほか、下旬からの春物の立ち上がりにおいて主力である衣料品の動きが低調であったものの、初売りとの同時スタートが奏功したセールが好調に推移したことに加え、総合空間事業のパルコスペースシステムズの売上増により、パルコ事業全体では対前年1.5%増となった。

3) その他

- ・卸売事業の大丸興業は、電子デバイスが好調を持続したほか、食品・リテール事業など他の全ての部門が前年実績を上回ったことから、対前年9.9%増となった。
- ・クレジット事業のJFRカードは、外部加盟店手数料収入が増加したものの、グループ内取扱手数料率の見直しにより、対前年▲3.8%減となった。
- ・その他事業は、J.フロント建装がグループ内外の内装工事の売上計上により大幅増となったことや、今期よりフォーレストが加わったことなどから、対前年27.1%増となった。

お問合せ先	J.フロント リテイリング株式会社	グループ広報・IR担当
	TEL	03-6895-0178
	FAX	03-6674-7565

2015年1月度 百貨店事業 営業報告

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	1月度		9～1月度累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	2.6	▲7.3	▲0.6	▲7.4
大丸 梅田店	2.8	▲15.8	4.0	▲15.8
大丸 東京店	3.7	▲3.8	3.0	▲5.9
大丸 浦和パルコ店	▲6.5	▲4.9	▲6.8	▲4.1
大丸 京都店	▲1.7	▲10.6	1.2	▲8.2
大丸 山科店	▲5.5	▲5.9	▲6.0	▲7.0
大丸 神戸店	▲1.7	▲11.8	▲1.1	▲10.1
大丸 須磨店	▲8.6	▲13.7	▲5.9	▲13.6
大丸 芦屋店	▲6.5	▲10.6	▲4.9	▲9.8
大丸 札幌店	1.1	▲10.0	2.1	▲11.9
松坂屋 名古屋店	▲4.0	▲7.3	▲0.4	▲6.0
松坂屋 上野店	▲9.7	▲32.6	▲15.7	▲29.3
松坂屋 静岡店	▲6.1	▲8.2	▲4.0	▲4.7
松坂屋 高槻店	▲6.0	▲19.4	▲5.5	▲19.9
松坂屋 豊田店	▲3.4	▲0.1	▲3.5	▲3.2
大丸松坂屋百貨店合計	▲1.3	▲11.0	▲0.9	▲10.9
博多大丸	▲7.4	▲5.8	▲3.8	▲2.6
下関大丸	▲12.8	▲2.3	▲5.5	▲2.4
高知大丸	▲5.5	▲3.6	▲4.8	▲1.1
百貨店事業合計	▲2.2	▲10.4	▲1.3	▲10.1

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	1月度	9～1月度累計
紳士服・洋品	0.9	2.2
婦人服・洋品	▲3.0	▲0.6
子供服・洋品	▲2.7	▲1.4
その他の衣料品	▲15.0	▲12.4
衣料品計	▲2.8	▲0.7
身回品	▲6.3	▲5.4
化粧品	12.4	9.4
美術・宝飾・貴金属	17.0	6.1
その他雑貨	18.8	28.6
雑貨計	15.3	9.4
家具	▲19.1	▲17.7
家電	29.2	6.5
その他の家庭用品	▲4.5	▲6.2
家庭用品計	▲7.3	▲8.4
生鮮	▲5.5	▲3.0
菓子	▲2.9	▲1.6
惣菜	4.0	2.7
その他食料品	▲2.4	▲5.1
食料品計	▲1.3	▲1.6
食堂・喫茶	▲5.2	▲4.8
サービス	▲32.1	▲22.7
その他	1.2	▲3.4
合計	▲1.3	▲0.9

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、ラグジュアリーブランドが5か月連続で前年実績を上回ったものの、衣料品は月初の曜日周りの影響などもあり、やや弱い動きとなった。紳士服・洋品は、コート、ブルゾン、セーターなど冬物衣料がよく動いた。身回品は、かばん・旅行用品が好調であったものの、アクセサリ、婦人ロングブーツなどの動きが鈍かった。雑貨は、時計が5割増と大きく伸びたほか、化粧品も2桁増と好調を持続した。家庭用品は、家具数物が前年度の駆け込み需要の反動によりマイナスとなったことが響いた。食品は、名古屋店大型催事の開催が、1月から2月に繰り下げ開催となったことなどが影響した。